

校訓 **信頼** **努力** **協同**

令和4年度

# 狭山台中だより

狭山市狭山台4-26

04-2958-6791

令和5年3月22日

第18号

学校教育目標

◎学び合う生徒

◎考えて行動できる生徒

◎高め合う生徒

## 卒業生189名 別れの言葉

3月15日、3年生189人は卒業していきました。それぞれの進む道を自ら選択し、春の出会いに期待で胸膨らませ巣立つ季節。大変立派な卒業式でした。担任の呼名に対する一人ひとりの返事、卒業証書を受け取る時の真っすぐな視線や笑顔、話を聞くときの凛とした態度、そして歌声。3年間コロナに翻弄された生活でしたが、いつでもベストを尽くし、狭山台中をリードし、支え、後輩たちに確かなバトンをつないでくれた189人に感謝の気持ちでいっぱいです。

卒業式での別れの言葉（答辞）に、コロナ禍の3年間の思いを感じ、とても心に残りました。泣けました。紹介させていただきます。



### 令和5年3月15日 卒業生代表

長く厳しかった冬も終わり柔らかな日差しに包まれる春がやってきました。今日は、私たちのためにこのような素晴らしい式を開いていただきありがとうございます。

今日、私たちはたくさんの思い出とともにこの狭山台中学校を卒業します。ご来賓の皆様、校長先生をはじめとした諸先生方、保護者の皆様におかれましては、私たちの門出をあたたく祝ってくださり、卒業生一同感謝申し上げます。

私たちの中学校生活は、世界が先の見えない不安で覆われている中、分散登校からスタートを切りました。まだ、話したことのないクラスメイトも多い中、マスクをつけソーシャルディスタンスを保ち、ひたすら消毒の日々。机に取り付けたシールドはすぐに倒れてしまい、倒すたびに先生に苦笑されたものでした。そんな異例な学校生活でも、私たちは部活動、定期テスト、体育祭や音楽会など着実に中学校での経験を積んでいきました。

私がまず思い出すのは部活動です。部活動では悔しさも、喜びも、寂しさも、感動も全てを味わいました。他の子はどんどん上達していくのに私は取り残されてしまうという焦り。番手が落ちてしまって試合に出してもらえないという悔しさ。部活が嫌になってしまって、やめてしまいたいと思うこともありました。それでも最後まで駆け抜けられたのは、頑張っている仲間がいたからです。私も頑張らなきゃと思わせてくれました。そして、最後の学総では、ペアや仲間と声を掛け合い、全力で臨み、勝利のときには喜びの叫びを共にあげました。最高の仲間だったと胸を張って言うことができます。ありがとう。

体育祭もかけがえのない思い出です。今年度の体育祭は、前年度がコロナの影響より中止となっただけに、最高学年として後輩たちを引っ張っていけるかどうか、不安のあるものでした。前に立ってきびきびと指示

を出す団長や応援団の皆の姿はたくましく、同級生としてとても誇らしかったです。当日は、大きな盛り上がりを見せ、競技でも、精一杯の声援を学年関係なく送り続け、全員の心が1つになったのを感じました。大縄跳びでは、昼休みを活用し、最後の最後まで練習しました。結果はい1位ではなかったけれど、みんなであきらめず最後まで跳び続けました。「一生懸命やる事はかっこ悪いことでは無い」体育祭で学んだことです。みんなで一生懸命取り組んだからこそ、今の私たちがあるのだと信じています。そして有志の人たちが発表した学年末のお楽しみ会の「エンタの皆様」も素敵な思い出です。先生方や学級委員もみんなが計画・準備をしてくれたおかげで私たちは楽しい時間を過ごすことができました。集まった団体は、ギャグ物から真剣なものまで幅が広く、その人の新しい一面を知れるのが素直に嬉しかったです。演目が終わった後にはどの団体にも温かい拍手が送られ、やはりお互いを認め合える良い学年なのだと再確認することができました。

こうして中学校生活を振り返ると、多くの方々を支えられて私たちは生きてきたのだと、改めて感じます。

まず、私たちのことを常に第一に考え、3年間ずっと支え続けてくださった先生方。私たちはどんなに困らせても、広く優しい心で接し、私たちの進むべき道を示してくださいました。先生方のおかげで私たちはこの場に胸を張って立つことができました。本当にありがとうございました。

在校生の皆さん今まで私たちについてきてくれてありがとう。これからは皆さんが学校を支える番です。皆さんなら絶対に大丈夫です。良い台中を作ってくれと確信しています。仲間を大事にしてこれからも進化し続けてください。卒業生一同、応援しています。

15年間ずっとそばで見守り続け、大切に育ててくれた家族。たくさん反抗しました。たくさん悩ませました。たくさん衝突しました。でも、友達とうまくいかなかった時、部活で悔しい思いをした時、帰る場所は、いつだって家族のいる家でした。家族のいない生活なんてありえなかった。苦しい時は、いつも私の最大の味方であり続けてくれました。そんな家族に今伝えたいのは、「ありがとう」と言う言葉だけです。ありがとう。そして一緒にこの台中で3年間過ごしたみんな。3年前の4月、私はちょうどここで新入生誓いの言葉を述べました。あの時の私はとても緊張し、怖くてたまりませんでした。なぜなら、知らない顔がたくさんあったからです。そして今日、私はここで別れの言葉を述べています。今の私は怖くなんかありません。なぜなら、楽しい時間を一緒に過ごし、うるさいくらいに笑いあった仲間の顔がたくさんここから見えるからです。休み時間中にじゃれあっているクラスメイトの姿。授業が始まると流れるクラス特有の空気感。いくら話しても話の尽きることのなかった友達との帰り道。もう戻ってこないと言う事実が、未だに信じられません。卒業するにあたって思い出すのは、本当にくだらなくて本当にしょうもなく、でも、本当に大切な思い出ばかりです。みんなのおかげで最高に楽しい3年間でした。本当に本当にありがとう。

「コロナ世代」それが世間一般で言うところの私たちの学年でしょうか。確かにそうかもしれません。私たちは中学校生活をコロナとともに過ごしました。多くの制限もありました。見返す写真にはマスクをした顔ばかりが写っています。コロナがなければもっと楽しいことができたかもしれない。コロナがなければもっと友達と仲良くなれたかもしれない。そう思えばキリがありません。それでも私たちは私たちなりの楽しみを作り、私たちなりの部活動をやり、私たちなりの3年間を形作ってきました。そのことに何の違いがあるのでしょうか。私たちは変わらない青春を謳歌していました。私たちはこれからも先へと、それぞれ違う道を進んでいきます。その先に何かあるかわからないけれど、選んだ自分を信じて一步一步、歩いていきましょう。不安な日々を乗り越えた私たちなら大丈夫。無限に広がる未来に手を伸ばしましょう。最後に3年間お世話になった狭山台中学校のますますのご発展をお祈りし、別れの言葉とさせていただきます

**校長のつぶやき** 別れの言葉にやられました。話を聞きながら3年間、マスク生活を強いられた生徒の思いをあらためて感じながら、これからの卒業生たちの活躍を祈るばかりでした。がんばれ！台中生！！

**令和4年度も……………あと2日とないました**